

## 第 29 回岩手県食の安全安心委員会議事録

### 1 開催日時及び場所

令和 4 年 6 月 13 日（月） 15 時 15 分から 16 時 15 分 岩手県産業会館 7 階 大ホール

### 2 出席者の氏名

#### (1) 委員

磯田朋子委員、小山田緑委員、菊地セツ子委員、千葉悦子委員、山口真樹委員、後藤和彦委員、佐々木安彦委員、佐藤圭委員、高橋一樹委員、新沼辰彦委員、梁川真一委員、及川亜希子委員、笹田怜子委員、佐藤至委員長、寺嶋淳副委員長、村元美代委員

#### (2) 関係室課等

堀川勇復興危機管理室主任、千葉哲也防災課主査、柚はなの学事振興課主事、八重樫香環境保全課主任主査、沖田潤一郎資源循環推進課主査、佐々木透若者女性協働同推進室、小野償子健康国保課主任主査、梁田尚美健康国保課主査、松崎浩恵子ども子育て支援室主任主査、清水稔子産業経済交流課主査、高師拓也農林水産企画室主査、藤原桃代流通課主任主査、久水しほ流通課主事、佐藤洋一農業振興課主任主査、藤田智美農業普及技術課主査農業普及員、藤澤由美子農業普及技術課主任主査、菅野史拓農産園芸課主任主査、佐藤裕夫畜産課主査、阿部瑛水産振興課技師、中川友治保健体育課保健体育担当課長、菅原史子保健体育課指導主事、松川仁紀生涯学習文化財課主任社会教育主事、千葉和久環境保健研究センター衛生科学部長、稲川多佳子県民生活センター主任主査

#### (3) 事務局

白水伸英企画理事兼環境生活部長、佐藤義房県民くらしの安全課総括課長、千葉正食の安全安心課長、佐藤直人主任主査、白藤裕久主査、白沢明美主査、小野寺秀宣主任、鈴木裕子主任

### 3 議事の概要

#### (1) 開会

#### (2) あいさつ

白水伸英企画理事兼環境生活部長があいさつを述べた。

#### (3) 議事

ア 令和 3 年度における食の安全安心の確保のための施策評価について

##### ①岩手県食の安全安心推進計画

千葉正食の安全安心課長から資料 1-1 及び資料 1-2 により説明があった。

##### 【質問・意見等】

- 佐藤至委員長 主要指標Ⅲ-2 について、流通食品検査等の検査件数 1,030 件のうち基準超過が 1 件とのことだが、参考指標Ⅲ-6 にあるレタスの残留農薬基準超過の件か。
- 千葉正食の安全安心課長 流通食品検査ということで本県が収去検査した事例になるが、

アイスマルクの大腸菌群が陽性だったもの。成分規格としては陰性であることとなっている。

- **佐藤至委員長** コロナの影響で講習会等関連の指標は未達成になっているが、他の指標は達成ということで、この施策は概ね良好に執行できているということで良いか。  
(委員から異議なし)

## イ 令和3年度における取組実績について

### ①岩手県食の安全安心推進計画

千葉正食の安全安心課長から資料1-3により説明があった。また、県以外の主体の取組について、資料1-4により、小山田緑委員、後藤和彦委員、佐藤(圭)委員、高橋一樹委員、及川亜希子委員から説明があった。

#### 【質問・意見等】

- **佐藤至委員長** 高橋委員にお伺いしたいが、残留農薬検査における基準超過事例はあるものか。
- **高橋一樹委員** 年に1~2回は超過がある。野菜関係でドリフトによるものが多い。農薬の適正使用について、県からの指導のほか私共やJAからも指導している状況。

### ②岩手県食育推進計画

千葉正食の安全安心課長から資料2-1及び資料2-2により指標の状況について説明があった。

#### 【質問・意見等】

- **後藤和彦委員** 地産地消促進計画を策定している市町村が32ということで、非常に良いことだと思う。食育はもちろんだが、地域の活性化にも役に立つのでぜひ続け、岩手の農畜産物の消費拡大を進めていただければと思う。
- **小山田緑委員** 朝食を毎日食べる子どもの割合について小学4年生では96.6%と高く、素晴らしいと感じている。一方で、児童センターで働いている際に、午前中に空腹を訴える子どもが割と多いため朝食の中身を聞くと、「菓子パンを少し」などの十分に食べていない内容の場合が結構ある。朝食の中身については調査しているか。
- **小野償子健康国保課主任主査** 喫食率のみ把握している。
- **佐藤至委員長** 食事内容まで調査するとなると、難しいものか。
- **小野償子健康国保課主任主査** 現場からはプライバシーなどの面から調査が難しいと聞いている。
- **中川友治保健体育課保健体育担当課長** 朝食内容については当課でも把握していないが、食べない理由については、文部科学省が平成30年度に家庭教育の調査研究において「子供の朝食習慣に関するアンケート調査」を実施しており、「食べる時間がない」「食欲がない」の回答割合が多かった。さらに、朝食を欠食する子どもの生活習慣を調査したところ「就

寝・起床時刻が遅くなりがち」「夕食時刻が比較的遅い」「夕食後の間食が比較的多い」といった傾向があった。

- **小山田緑委員** 調査となるとプライバシーの面から大変だと思うので、教育委員会等でプリントにより親に朝食の大切さを繰り返し訴えかけることをしていただければと思う。今のお話で「寝坊して食べられない」というものがあつたが、児童センターで対面している子ども達からは「起きていたが親が自分の準備で忙しく朝食が用意されていなかった」と聞くことも多いので、親への啓発をお願いしたいと思う。
- **千葉悦子委員** 子ども食堂について、利用されている方の声や利用割合など、利用状況は調査しているか。
- **松崎浩恵子ども子育て支援室主任主査** 県では、子ども食堂に限らず、学習支援等も含めた学校と家庭以外の「子どもの居場所」について市町村数や設置箇所数を把握しており、最新の数字で24市町村79か所となっている。自治会、NPO、社会福祉協議会など様々な主体が設置している。食を通じた支援を行っている例も多いが、集会所などに集まって一緒に食事しながら会話したり遊んだりなどの支援はコロナの影響によりできなくなっており、弁当のような持ち帰りの食事を用意して、渡す際に家庭内で支援が必要な状況にないか確認するという形で支援している。利用割合などの利用状況は把握していない。
- **千葉悦子委員** 一関市でも取組が始まっており大変好評なようだったので、県内の状況をお聞きしたものでした。ありがとうございました。
- **山口真樹委員** コロナの影響が少し落ち着いてきて、小学校でも調理実習が再開するようになってきた。郷土食や伝統食を教育現場で教えながら食育に取り組むことができれば良いと思う。子ども達も親も郷土食を知らないので、教える場や提供する場が必要だと思う。

また、朝食を毎日食べる子どもの割合について、保護者の話を聞くと、子供たちがスポ少や塾で忙しいために、就寝時間が小学生でも10時、11時など遅くなりがちのようだ。難しい問題だとは思いますが、食の大切さを知らない保護者も朝食を提供しない子どもも食べないとなってしまう。食育の講習会やセミナーはあるが、興味のある方はすでに受講しているので、食に無関心な人を巻き込んでいく方法がないと難しいと思っている。

続いて、千葉正食の安全安心課長から資料2-3により県の取組実績について、資料2-4により、磯田委員、小山田緑委員、高橋一樹委員から各所属団体での取組について説明があった。

## ウ その他

- **磯田朋子委員** ゲノム編集トマトをインターネットで販売している企業が、苗を福祉施設や教育施設に無償配布する計画を発表した。福祉施設には2022年、小学校には2023年に開始するとのことだが、県はこのことを把握しているか。

また、ゲノム編集は自然界での突然変異と同じだとして安全性評価の検証がされていないが、ゲノム編集と自然界での突然変異は同じではないと指摘する研究者もいる。ゲノム編集食品を食べさせたくないという親もいると思う。質問の2点目だが、岩手県において無償配布された場合に、受け取るか、受け取らないかの判断はどの部署が行うのか。

- **千葉正食の安全安心課長** ゲノム編集トマトの無償配布について情報は把握していない。ゲノム編集食品について様々な意見があることは承知している。厚生労働省として一定の基準を設けて、それをクリアしたものだけが流通する制度であるので、流通について県が良い悪いというものではないと思うが、大事なのは消費者が分かったうえで選ぶ、買う、食べることができる仕組みであり、食べたくない人は食べなくて済むことが第一だと思っている。まずは情報収集が必要である。

続いて、千葉正食の安全安心課長から資料3により食の安全危機事案の対応について説明があった。

#### (4) その他

千葉正食の安全安心課長から資料4により岩手県民計画（2019～2028）第2期アクションプランの策定に係る意見について説明があった

#### (5) 閉会